



大島集落



森下昌次

観光立町宣言について

観光立町宣言について

質問

湯沢町は町村合併以来50周年を迎えようという今日、観光地としては行政施策面での地域整備もかなり進んでいると思うが、スキー場を始めとした観光産業においては、民間企業の投資などに助けられながら観光の町と言われているのが現状である。この10月には改めて観光立町を宣言し、新たな戦略で魅力ある湯沢町をアピールしていこうというが、具体的な構想と経費面について伺います。

町長答弁

観光立町宣言は基幹産業である観光面の現状を考え、観光湯沢町の再生、復活を願うものであり、目的とするところは、来客者に対して、おもてなしの心を大切にするとこの基本姿勢に立ち返る姿勢作りであること

一

質

問

を、観光関係者や一般町民に理解してもらうことである。
毎年10月下旬の日曜日に記念イベントを行うつもりである。

観光協会の法人化について

質問

観光立町宣言に付随して今後は町観光協会の果たす役割が重要になってくると思われる。そうした中で以前から話題になっている町観光協会の法人化構想はどの程度進捗しているか。

町長答弁

観光協会の法人化については法人化検討委員会を設立して検討してきたところであるが、社団法人の申請段階において地区観光協会の連合体での法人化では意義がないという意見もあり、現在検討中である。

観光施設整備について

質問

最近の登山ブームの中で苗場山林道、赤湯林道などの延長、駐車場整備、及び登山道標識など、各種の施設整備が必要と思われる。また登山道標識などに示されている所要時間表示などについても見直しが必要と思うが如何か。

町長答弁

苗場山林道の延長と駐車場の拡幅整備などについては環境保護の立場から大変難しい。また、赤湯林道の整備については、危険な地形でもある事や、費用対投資効果の面から考えると現状では出来ない。登山道の所要時間表示については、あくまで標準時間であると認識している。

質問

3月18日の現在の検討状況によると、8月25日

三俣未来まちづくりについて

町長答弁

9月15日に三俣未来まちづくり協議会と四者会議を開き、今後定期的な会議において地元提出の検討項目が協議されることとなった。また、国土交通省においては護岸整備のための測量や、緊急災害防止のスノーシェッド、水無川砂防ダム工事、水利模型実験調査、県のナダレ防止柵、下水道調査など、順調に推移しています。



三俣集落